



門へ達13  
2257  
7

繪本烈戰功記卷之七

目録

小幡信定大勇返答之事

甲館繁栄信定下城之圖

武田義信逆心之事

秋富昌景義心之事

逆臣誅戮之事 并 秋原豊前武勇之事

秋原主俊討取曾根父子圖

秋富虎昌自殺之圖





繪本烈戰功記卷之七

小幡信定大勇反答之本

夫自反而不縮雖得寬博吾不揣為自反而縮雖千萬人吾往矣と  
 大勇と授一格言今猶是也作之  
 信玄より召小幡とて甲府乃館は伺候したりと云ふ信玄原  
 集人依以信定が妻女離縁せしむるの旨命せらるると  
 信定これと交り遠背の五答信玄乃氣を小幡に罵る  
 曲剛三科の勇士信定は九圃み列座乃勇士も各其陣を  
 ぞ拒むる當下信定些も怯せず殺敵而言ちらん婢子離縁  
 の儀教令かじしと云ふも此儀長孫信法守内征伐公茶  
 小令せらるるに依りて云ふ中より云ふ言離縁仕るべくは乃大



原入道信若病死之本馬場景昌成美濃守事  
 義信の婦人飯後州事



深

今に至りて斯る命令が出来ず。信定は相成りて、  
 信定先主上、執憲政の體弱をうせみ言はれ、國を越後、  
 大に勝まれ、長野信法守及一族三河守、保書とみと、  
 黨のふたの者どもと、賺し、  
 又押せば、一時は討たんと巧しと、近臣亦一命と、  
 以て虎口に出、  
 婢子も信定を凌ぐ、其後、  
 又折いて、五千の恩結を頂き、  
 信定及一族良黨、  
 や。然るも、  
 以とも、  
 大ある、  
 以と、  
 賞、  
 有威威、  
 理と威、  
 武田入道、  
 定が言、  
 おり、  
 きぞ、  
 も二君、

以てカニ巻

歸 示 保

信 定

寄

今に至りて斯る命令が出来ず。信定は相成りて、  
 信定先主上、執憲政の體弱をうせみ言はれ、國を越後、  
 大に勝まれ、長野信法守及一族三河守、保書とみと、  
 黨のふたの者どもと、賺し、  
 又押せば、一時は討たんと巧しと、近臣亦一命と、  
 以て虎口に出、  
 婢子も信定を凌ぐ、其後、  
 又折いて、五千の恩結を頂き、  
 信定及一族良黨、  
 や。然るも、  
 以とも、  
 大ある、  
 以と、  
 賞、  
 有威威、  
 理と威、  
 武田入道、  
 定が言、  
 おり、  
 きぞ、  
 も二君、





甲府  
 館  
 下信定  
 の城  
 圖











かきつぐとて使者とありて。まじく辱せしむるをけれども。義信  
よりふも。却而宿意と違ふ存方の五答あり。不  
不和と我とあり。茲又又後河の圓守今川氏真と云ふ  
信部太補我元の子小とて。母信玄乃妹とておと。ち  
希ふよ。信玄信玄とあり。心中其類の懐ひを  
乃不。信玄我信不和の懸信。時を待たれとて。電  
臣三浦右衛門尉とね後あり。信玄を廢去し。義信よ世に繼  
し。武田家我幕下の形りて。事を起すの能たより  
あり。思惟とて。結く義信へ密使を送り。信玄の又信虎  
と退出とて。又信玄を廢去あり。何の障り  
うあふたれや。氏真方人となり。本意以遂さや。中は

植

少く。起燈文と係り送られ。義信大に悦び。氏真へ謝  
謝とて。輕後掾と稱す。益逆意の係り。おと。され  
ちり。おと。老臣。然富兵。幼少。捕虎。長坂。長閑。が。源  
六郎。其外。義信。が。の。曾根。周防。守。初麻。小。兵。信。林。松。を  
希とて。宗。佐。の。方。人。三十。余人。を。及。び。け。る。小。例。年。七。月  
十五。日の。夜。に。甲。府。の。街。に。一。統。小。燈。籠。が。約。く。若。兵。と。信  
有。身。と。ち。れ。た。城。中。より。も。こ。こ。り。て。ん。お。と。出。る。即。義。信  
と。れ。席。より。と。て。燈。籠。を。お。か。表。と。し。て。城。中。を。立。出。曾  
根。周。防。守。長。坂。原。六。郎。只。お。人。と。召。連。密。に。然。富。虎。四。郎  
に。到。り。逆。意。の。密。使。及。び。ん。々。ふ。義。信。中。を。れ。ち。り。既。ち  
今。川。家。味。方。に。方。人。を。上。は。是。よ。と。れ。る。候。び。ま。し。候。

川氏カ已卷之七





















救原 主後  
 曾根 父子  
 付取 團









敵系居たり。此家来き人にて。此公あまよと。民人て。又同旁  
 成通さざりちれ。今人の是難き。時刻を。時を。事六じと  
 門を打破て。一同ま。入。途。周防。連。犬。け。と。大。方。り  
 子。曾。根。兵。衛。尉。を。先。羽。翼。と。乳。一。別。當。の。士。十。七。人。面。も  
 う。べ。切。て。出。必。死。と。る。切。き。れ。を。敵。系。が。兵。士。十。二。人  
 同。拵。又。お。死。に。敵。系。を。大。に。怒。り。自。太。刀。刃。か。ざ。り  
 周。防。守。を。あ。て。う。る。背。が。あ。り。が。戦。ひ。が。横。斬。一。声。曾。根  
 が。肩。先。より。乳。の。下。く。け。く。切。下。り。良。堂。菅。野。又。七。郎。周。防  
 が。婿。子。兵。衛。尉。を。討。え。ち。り。十。七。人。の。別。兵。曾。根。が。重。賞。以。給  
 ける。者。一。号。も。知。ら。ぬ。思。ひ。く。は。血。戦。と。残。ら。び。切。死。を。ぞ

平家物語卷三十一

三十一

あ。り。ち。り。若。小。又。依。富。三。郎。兵。衛。昌。景。の。兄。兵。衛。少。輔。虎。昌。が。備。中  
 の。中。に。け。り。ふ。虎。昌。の。本。も。あ。り。け。り。が。岡。知。お。ま。り。兵  
 衛。昌。景。の。末。り。と。聞。く。何。れ。も。待。う。け。何  
 事。有。て。夜。又。入。り。来。り。同。中。兵。衛。昌。景。兵。衛。少。輔。を。吃  
 せ。取。予。家。の。源。氏。の。同。流。中。に。武。田。雲。代。の。右。家。を。る。成。今  
 由。辺。が。あ。り。祖。先。と。縁。と。事。乃。く。中。に。よ。と。恨。の。眼。は。涙。が  
 會。ひ。ま。じ。り。み。く。立。居。る。を。兵。衛。の。例。の。如。く。は。昌。景。我  
 と。縁。る。事。を。り。と。思。ひ。け。ま。り。態。と。面。を。平。予。先。兵。衛。昌。景  
 より。信。を。公。に。代。し。事。敵。友。の。戦。場。は。懸。敵。成。道。前。志。事。の。敵。何  
 ぞ。や。今。何。の。益。あ。り。と。不。忠。の。心。を。信。連。綿。る。右。家。と。職  
 と。な。れ。や。必。死。人。事。を。れ。と。恭。然。と。て。臨。ど。ち。れ。と。三。郎。兵。衛

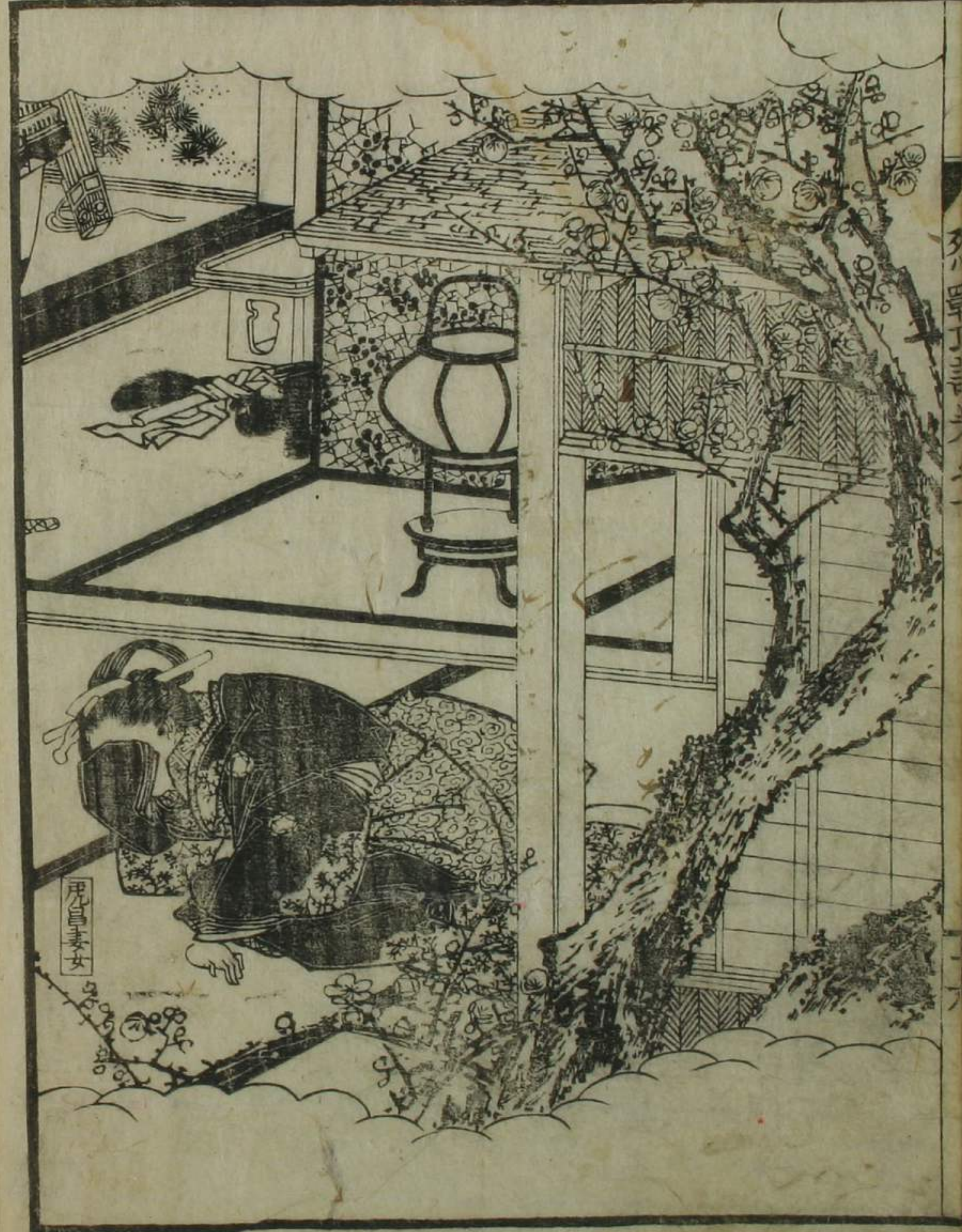














多岐の。是又天又輝はせし跡とあすべの台の下又志意と  
おれた。お新成は益々。昔孝母母ど根小逆意と企て身  
名を継而しお守り守り守り守り守り守り守り守り守り守り  
殺し。戦功の勇士と屠らせ。自身も牢居小若む短文書  
の将といふ。後令一旦事と遂るふいふも。天は  
道重ちんや。後昆顔而滅。既生又既生。

原入道清岩病死之。年并馬場景昌成。義濃守事。

生死更小人方の。及ぶふ守。秋風争武候と除ん。五丈原上  
草葉の露哀べし。甲陽随一乃勇士と。其の  
虎窟へ及清岩病死す。父の原能登と号し。中総の國乃  
た。大刻の勇士と。武田佐虎若年比討より。甲及び移

く勤仕。其後能坐病死と。其法十七歳と。佐虎小は。今年  
永福七年。年七十一。忠勤更小。事。秋八月。病床小。伏死。病にて  
嫡子横田十郎兵衛。此の一族を。枕。嘆。息。歩。て。曰。ふ。七  
歳乃。初。改。より。と。信。玄。公。由。父。子。の。感。怆。三。十。八。通。項。戴。と。又  
法。花。侍。土。宗。備。の。年。二。つ。た。信。玄。公。の。由。不。具。と。蒙。り。小。四。年  
牢。人。し。と。小。条。家。乃。扶。持。と。交。る。事。四。年。其。間。も。武。勇。小。若  
の。院。文。氏。安。公。より。ぬ。ら。と。ふ。其。後。由。不。具。恩。免。め。り。甲。府。に  
入。る。後。来。子。疵。と。ぬ。ら。事。八。十。二。ヶ。所。中。も。戦。場。と。も  
便。輿。と。身。ら。き。と。改。り。一。年。三。十。八。度。希。う。と。り。今。日  
只。今。席。上。小。和。む。妻。子。の。介。抱。と。り。と。り。臨。終。小。乃。事  
亦。侍。あ。る。む。や。各。君。忠。と。り。と。り。と。り。忠。義。の。例。と。も

平家物語卷之七

木

木











孫出頂して先守義元冠帯の毒小業務して同家中の四五  
 右匠が女容執員兼うると感おし一程と云ふよりて遂小密通  
 て己が邸は近同條の兩河相肆匪傍若社人の容おとあ  
 ける。されども右は遠ざかりぬまは。是は公敵の一人もたなく名家  
 漸くたきまうんと欲心ある所の眉を

酒のク

精の

アア

繪本烈陣功記卷之七畢



